

米沢與三松の苦惱

明治四十年、日露戦争もわが国の勝利で終わり、羽二重用の力織機が出来、一部ではあるが電灯も導入されたころ。福江村・江ノ島・釜屋が合併し根上村が成立し、村長選挙会が開かれ、江ノ島村長・中山庄右衛門が、十八票中八票を獲得し初代根上村村長に選任された。

学校の新設は、当面の緊急課題で濁池小学校に補習学校付設の認可を得た、元、江の島村は、その建設を議会に出したが、福岡の反対で村議会否決、其の秋、山田正一ほか旧福江村住民五百十九名、が内務大臣及び県知事に、旧福江村の根上村からの分離独立が請願された、事件が起きた。

濁池尋常小学校の改築案、駒田小次郎代議士などの仲介で、中山村長辞任と引き換えに村議会可決した。それは明治四十二年一月の事である。

翌日、東 栄松が、根上村村長の臨時代理に選任されたが、二十日で辞職し、中の江の本多隆俊が、第二代の根上村村長になったが、出身の福江村では、旧福江村の分離に住民大会が開かれ、更に福江郷友会の現村長の本多氏が、県庁に出向くなど、四月に至り、福江郷友会員が西二口安受寺にて協議し、旧福江村出身の村会議員全員の辞職を決議した。

この事件は四月二十九日の事であった、五月十三日に福島のみ沢與三松が、第二代の根上村村長になっており、直ぐに、寺井村と協議して、

北陸鉄道停車場の設置に向けて、両村相携えて行動を取る事を決めている。

更にまだ、岡崎次作ほか旧福江村住民が内務大臣平田東助宛に旧福江村分離独立を陳情しているが、この陳情を最後に、この問題は終止符を打った。

当時の三村合併の際の、各村の財政状況を見ると福江村は村の財産を多く持つており、釜屋に至っては、殆ど財産を持つていない状態であった、従つて福江村としては、新根上村に多くの村財産を提供するのは、大きな損失であった。

また、当時福江村は純農村であり、江ノ島村は漸く機業に目を向け始めた時期でもあり、福江村としては、「性に合わない」結婚であったのだらうと推察する。

大正元年五月、北陸鉄道停車場、濁池地内に起工。米沢與三松は、七月、鉄道院総裁 原敬に対し、駅名を「根上り」とすることを申請しているが、駅名は「てらい」と既に決められて、寧ろ線を変更したのだとの経緯を知らされた。吉岡藤左衛門は米沢の責任を追及するが、先に示した書簡のように、政治的手腕の足りない、米沢と加賀市の代議士・中谷氏と充分に連絡し合っていた、吉岡氏や、中山初代村長は、本当は寺井につくべき北陸線を、根上村に持つてきた経緯を周知すべきであったと思う。特に、この駅名問題は、現在でも尾を引いている問題なので真相を知りたい。